



筑豊創生プロジェクト

まいんどバシ—構想

筑豊の自立を導くゲートゾーン
～新幹線新駅設置と周辺整備について～

平成13年11月
九州環境開発株式会社

はじめに

筑豊地域は、かつては日本が必要とする石炭産出量の四割を供給し、一世紀の長きにわたって日本の近代化を支えてきました。しかし、エネルギー革命の進展、産業政策の転換により我が国の炭田は次々に閉山に追い込まれました。このため、国は地域の復興に向けて産炭地域振興施策に基づき事業を推進してきましたが、いまだ復興が十分とはいえないのが現状であります。これからの筑豊は、国ばかりに頼るのではなく、自ら英知を結集し、大地に足をつけ、明治以来日本の産業経済を支えてきた筑豊の誇りにかけて、今こそ自立しなければなりません。

一方、我が国全体では長期にわたる経済停滞、構造改革と地方分権への取り組みといった社会情勢を背景として、地域が自ら考え、真の自立に向けた地域振興方策を打ち出していく時期にきているといえます。筑豊地域内には、トヨタ自動車九州、東芝などグローバルに活躍する大企業の立地がみられ、個性的な地域資源を有する各市町村と企業、地域住民が連携してまちづくりを進めていく可能性を有しています。

こうした背景を受けて、宮田町においては、有志による地域振興方策の検討会として「重細重総合研究会」を設立し、過去10年にわたって、関連機関・企業との意見交換、先進事例の調査、地元協議などを実施してきました。

本報告書は、これまでの検討の内容を受けて、筑豊地域の再生と自立をめざす基本構想としてとりまとめた“まいんどバレー構想”をご紹介します。この構想を地域活性化のグランドプランの骨格と位置づけ、今後、関係機関との連携により、体制・資金面の具体化を図っていくこととしております。この構想についてご理解いただき、我々と手をつないで一緒に考えていただき、ご指導・ご支援のほどを心よりお願い申し上げます。

目次

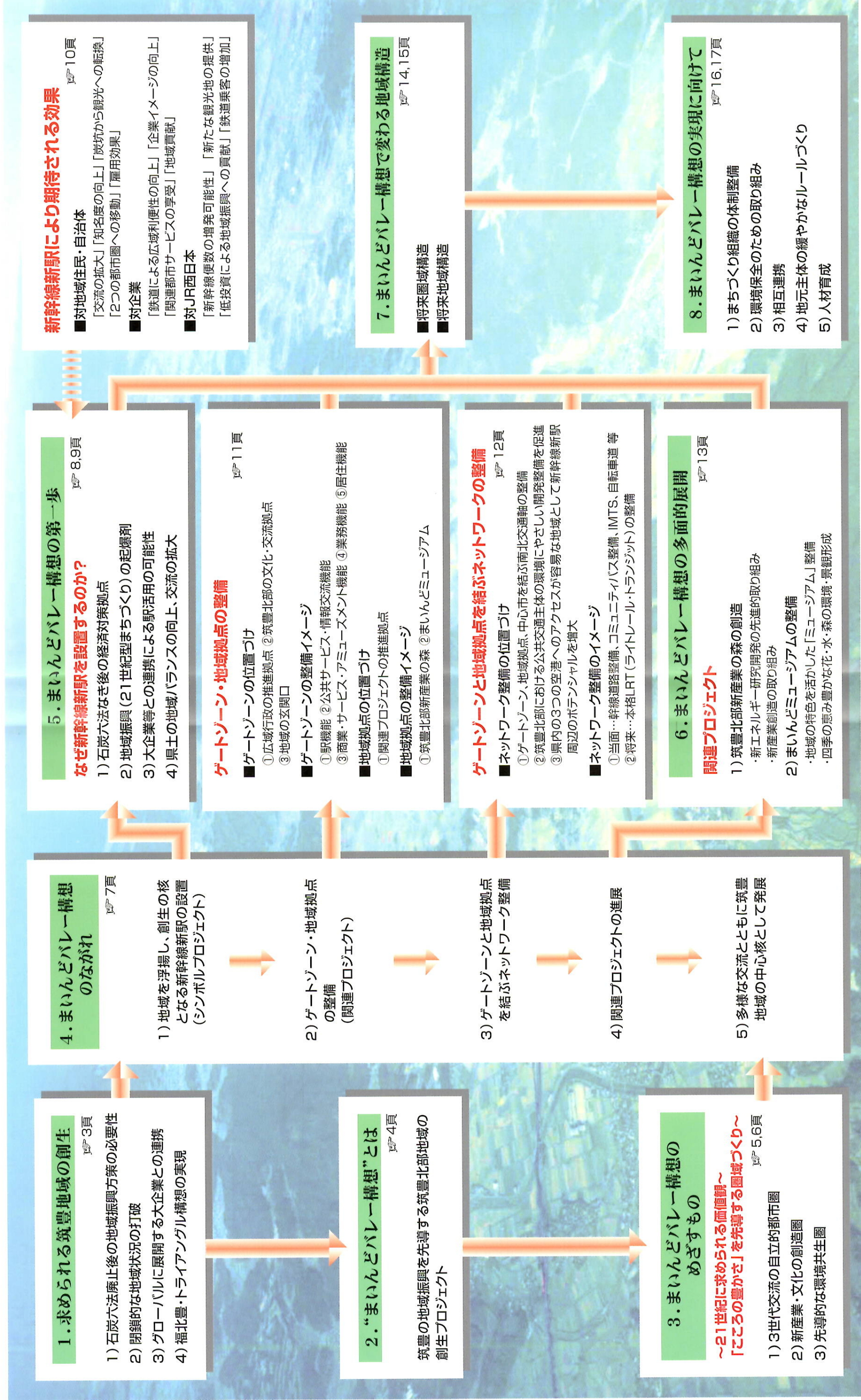
はじめに	1
全体像	2
1. 求められる筑豊地域の創生	3
2. まいんどバレー構想とは	4
3. まいんどバレー構想のめざすもの	5
4. まいんどバレー構想のながれ	6
5. まいんどバレー構想の第一歩	8
6. まいんどバレー構想の多面的展開	13
7. まいんどバレー構想で変わる地域構造	14
8. まいんどバレー構想の実現に向けて	16

まいんどバレー構想とは…

まいんどバレー構想は、筑豊地域において21世紀に求められる「こころの豊かさ」を先導する圏域づくりをめざすものです。「まいんど」という言葉には鉱山(mine)という意味も含まれており、「バレー」は谷という筑豊の地形的特徴を示しています。

新幹線新駅とゲートゾーンを起爆剤として、筑豊地域の再生と自立を先導するまちづくりをめざしています。

全体像



1. 求められる筑豊地域の創生

10頁

- 1) 石炭六法廃止後の地域振興方策の必要性
- 2) 閉鎖的な地域状況の打破
- 3) グローバルに展開する大企業との連携
- 4) 福北豊・トライアングル構想の実現

2. “まいんどバレー構想”とは

10頁

筑豊の地域振興を先導する筑豊北部地域の創生プロジェクト

4. まいんどバレー構想のながれ

10頁

- 1) 地域を浮揚し、創生の核となる新幹線新駅の設置 (シンボルプロジェクト)

- 2) ゲートゾーン・地域拠点の整備 (関連プロジェクト)

- 3) ゲートゾーンと地域拠点を結ぶネットワーク整備

- 4) 関連プロジェクトの進展

- 5) 多様な交流とともに筑豊地域の中心核として発展

3. まいんどバレー構想のめざすもの

10頁

～21世紀に求められる価値観～
「このころの豊かさ」を先導する圏域づくり～

- 1) 3世代交流の自立的都市圏
- 2) 新産業・文化の創造圏
- 3) 先導的な環境共生圏

5. まいんどバレー構想の第一歩

10頁

なぜ新幹線新駅を設置するのか?

- 1) 石炭六法なき後の経済対策拠点
- 2) 地域振興 (21世紀型まちづくり) の起爆剤
- 3) 大企業等との連携による駅活用の可能性
- 4) 県土の地域バランスの向上、交流の拡大

ゲートゾーン・地域拠点の整備

10頁

- ゲートゾーンの位置づけ
 - ① 広域行政の推進拠点
 - ② 筑豊北部の文化・交流拠点
 - ③ 地域の玄関口

ゲートゾーンの整備イメージ

- ① 駅機能
- ② 公共サービス・情報交流機能
- ③ 商業・サービス・アコモデーション機能
- ④ 業務機能
- ⑤ 居住機能

地域拠点の位置づけ

- ① 関連プロジェクトの推進拠点
- 地域拠点の整備イメージ
 - ① 筑豊北部新産業の森
 - ② まいんどミュージアム

ゲートゾーンと地域拠点を結ぶネットワークの整備

10頁

- ネットワーク整備の位置づけ
 - ① ゲートゾーン、地域拠点、中心市を結ぶ南北交通軸の整備
 - ② 筑豊北部における公共交通主体の環境にやさしい開発整備を促進
 - ③ 県内の3つの空港へのアクセスが容易な地域として新幹線新駅周辺のポテンシャルを増大

ネットワーク整備のイメージ

- ① 当面…幹線道路整備、コミュニティバス整備、IMTS、自転車道等
- ② 将来…本格LRT (ライトレール・トランジット) の整備

6. まいんどバレー構想の多面的展開

10頁

関連プロジェクト

- 1) 筑豊北部新産業の森の創造
 - ・新エネルギー研究開発の先進的取り組み
 - ・新産業創造の取り組み
- 2) まいんどミュージアムの整備
 - ・地域の特色を活かした「ミュージアム」整備
 - ・四季の恵み豊かな花・水・森の環境・景観形成

新幹線新駅により期待される効果

10頁

- 対地域住民・自治体
 - 「交流の拡大」「知名度の向上」「炭坑から観光への転換」「2つの都市圏への移動」「雇用効果」
- 対企業
 - 「鉄道による広域利便性の向上」「企業イメージの向上」「関連都市サービスの享受」「地域貢献」
- 対JR西日本
 - 「新幹線便数の増発可能性」「新たな観光地の提供」「低投資による地域振興への貢献」「鉄道乗客の増加」

7. まいんどバレー構想で変わる地域構造

10頁

- 将来圏域構造
- 将来地域構造

8. まいんどバレー構想の実現に向けて

10頁

- 1) まちづくり組織の体制整備
- 2) 環境保全のための取り組み
- 3) 相互連携
- 4) 地元主体の緩やかなルールづくり
- 5) 人材育成

1. 求められる筑豊地域の創生

1 石炭六法廃止後の地域振興方策の
必要性

筑豊の自立をめざす地域振興方策（産業創造・社会基盤整備・雇用創出）が緊急課題

2 閉鎖的な地域状況の打破

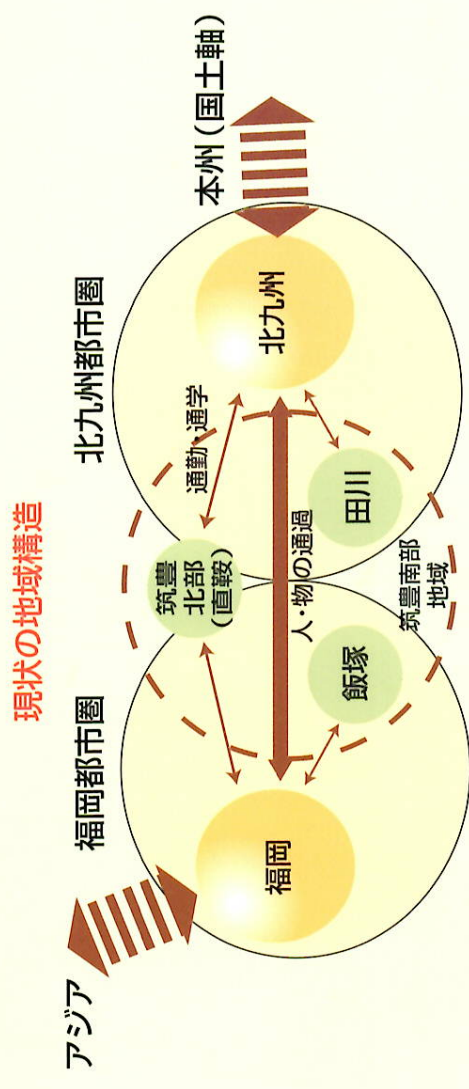
地理的閉鎖性(山々に囲まれた地域)
社会・経済的閉鎖性(中心性の欠如、人口の減少)
時間的閉鎖感(地域イメージ=炭坑)
地域間・都市間競争激化の時代への対応

3 グローバルに展開する大企業との
連携

トヨタ自動車九州(従業員2000人)、東芝などの事業所の存在

4 福北豊・トライアングル構想の実現

福岡、北九州との機能分担を具体化する筑豊地域の将来像の具現化が課題



2.“まいんどバレー構想”とは

筑豊の地域振興を先導する
筑豊北部地域の創生
プロジェクト

＝

“まいんどバレー構想”

① 筑豊地域の振興にあたっては、筑豊全体を見据えたプロジェクトの提案が必要

- 広範囲で個性的な市町村が集まる筑豊地域内での役割分担が効果的な地域振興につながる

▲ シンボルプロジェクトとして新幹線新駅の設置

② 筑豊地域の振興にあたっては、地域振興を先導する重点整備地域が必要

- 福岡・北九州との機能分担を進める地域として筑豊北部（直鞍）の高いポテンシャルを活用する

▲ ゲートゾーンや産業や文化の地域拠点の整備

③ 筑豊北部地域は、潜在的なポテンシャルや企業立地など、筑豊を先導する可能性

- 地域内外の多様な主体間の連携によって、点から面への地域全体の浮揚策が必要

▲ 関連プロジェクトの推進とまちづくりを考える1000人委員会の設置

3. まいんどバレー構想のめざすもの

～21世紀に求められる価値観～

「こころの豊かさ」を先導する圏域づくり

1 3世代交流の自立的都市圏

定住魅力の創造、交流人口の増大
(永く住み続けたいまち)

2 新産業・文化の創造圏

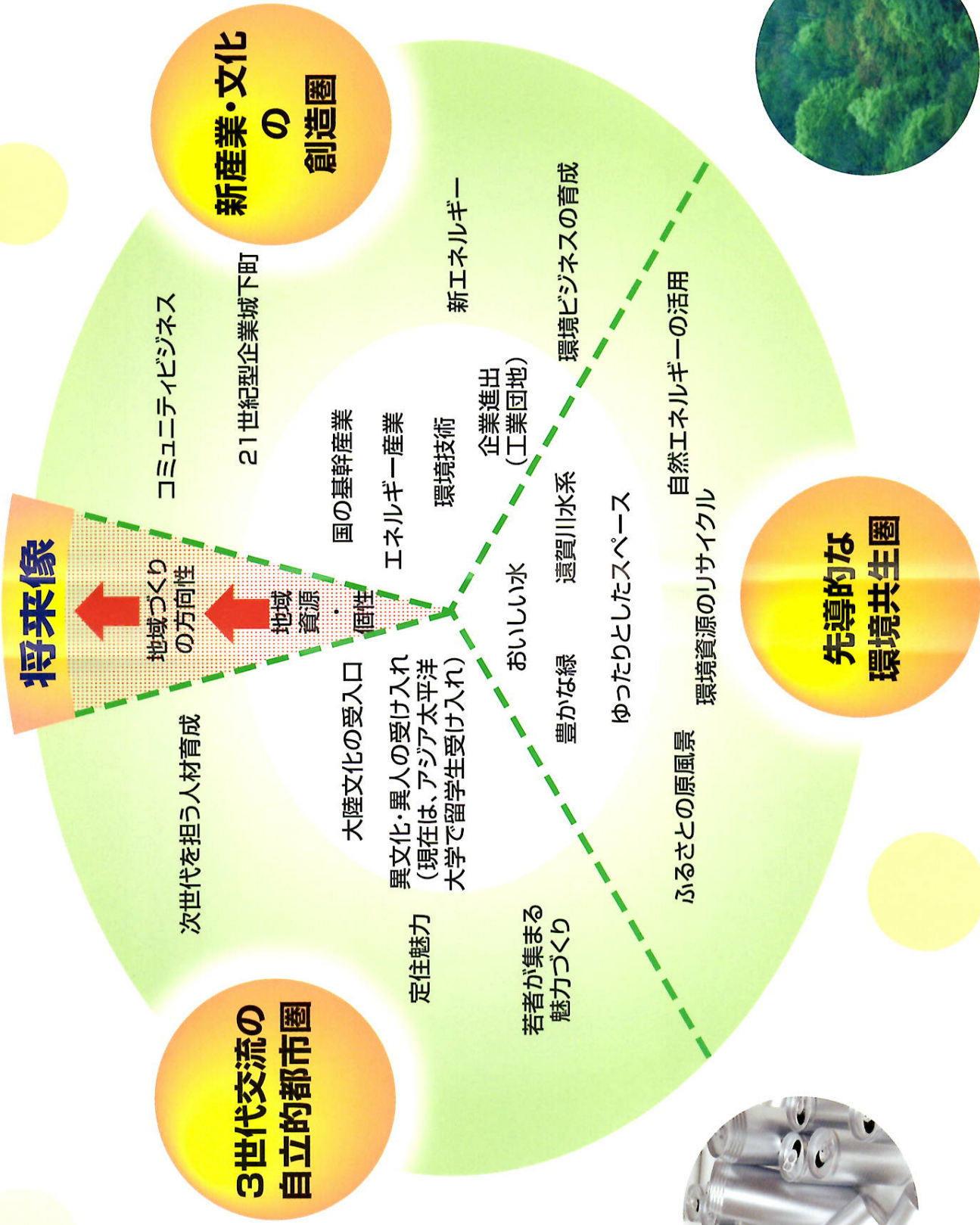
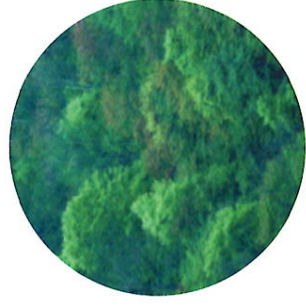
石炭に替わる21世紀を担う産業・文化として新エネルギー産業を創造

3 先導的な環境共生圏

恵まれた自然(緑・水)、地域の知名度やポテンシャルを活用して観光産業の創造

筑豊北部地域「まいんどバレー構想」

～21世紀に求められる価値観「こころの豊かさ」を先導する圏域づくり～



4. まいんどバレー構想のなごれ

1

地域を浮揚し、創生の核となる 新幹線新駅の設置（シンボルプロジェクト）

- 関連プロジェクトの準備により、利用増加を担保した新駅構想
- 福岡・北九州大都市への公共交通の整備

2

ゲートゾーン・地域拠点の整備 （関連プロジェクト）

- 開発可能余地を活かした新駅を起点とするまちづくり（ゲートゾーン）
- 都市機能・アミューズメント機能の集積（ゲートゾーン）
- 開発可能余地を活かし、自然環境に配慮した拠点整備、既存市街地の整備（地域拠点）

3

ゲートゾーンと地域拠点を結ぶ ネットワーク整備

- JR鹿児島本線や筑豊本線などを結び、新空港方面へ伸びる南北交通軸の整備
- 投資コストの軽減、省エネルギー・利用者に配慮した次世代のインフラの整備

4

関連プロジェクトの進展

- 新たな交流がもたらす知恵や情報の蓄積、産業創造や文化創造
- 環境、エネルギーなど次世代型産業と既存産業との連動・融合
- 教育機能、医療・福祉機能の充実

5

多様な交流とともに 筑豊地域の中心核として発展

- 筑豊南部地域への振興モデルの波及
- 福北豊の核の形成、県土の地域バランスに貢献
- 先進的プロジェクトの国内外への波及・発信



なぜ新幹線新駅を設置するのか？

1

石炭六法なき後の経済対策の拠点

- 自立した圏域づくりに結びつくセンター機能への期待
- 建設事業をはじめとする地域内経済効果
- 筑豊地域資源活用の窓口としての期待

2

地域振興(21世紀型まちづくり)の起爆剤

- 後背圏に個性的な資源を有する筑豊25市町村の存在
- 関連プロジェクトとの連携で進める戦略的整備の「要」
- 開発可能余地の存在と地元(宮田町)の合意

3

大企業等との連携による駅活用の可能性

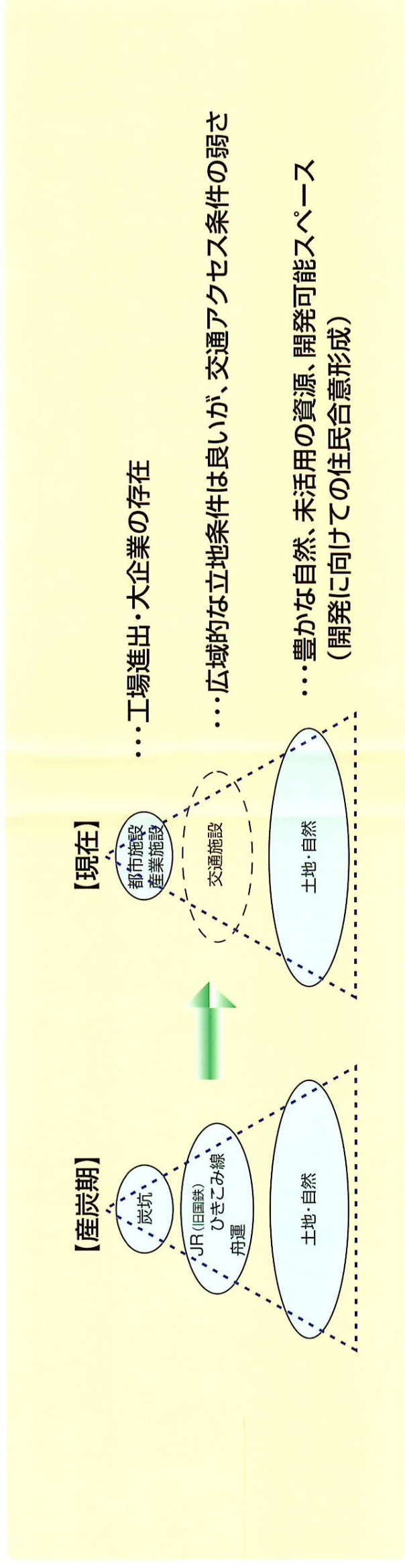
- グローバルに展開する大企業事業所の存在
(ビジネスユースへの対応)
- 大企業との連携による駅づくり・まちづくりの可能性
- 公共交通の脆弱さによる流出型行動の打開
- 工場・ファクトリーパークと地域のミュージアム化による
交流資源創造

4

県土の地域バランスの向上、交流の拡大

- 福北豊トライアングル構想推進の「要」
- 地域における広域交通拠点の整備
- 新空港整備など県土の結節機能の充実
- 国土軸における物流拠点の確保

筑豊の過去から現在



**新幹線新駅を起爆剤にしたまちづくり
(筑豊の自立を導くゲートゾーン整備)**

筑豊の未来 まいんどバレー構想





新幹線新駅により期待される効果



対地域住民・自治体

- ①交流の拡大
 - ▶国内外・県内・地域内の多様な交流(人、もの、情報)
- ②知名度の向上
 - ▶地域の中心性の獲得と地域からの情報発信
- ③炭坑から観光への転換
 - ▶資源を掘る時代から資源を磨く時代への転換
- ④2つの都市圏への移動時間の短縮
 - ▶約1時間の移動が10分に
- ⑤雇用効果
 - ▶建設だけでなく関連事業による地域の雇用創出効果

対企業

- ①鉄道による広域利便性の向上
 - ▶国内外の訪問・視察客や従業員の通勤・出張の利便性の拡大
- ②企業イメージの向上
 - ▶地域の発展とともに立地企業のイメージも向上
- ③関連都市サービスの享受
 - ▶駅周辺に立地する多様な都市的サービスの享受
- ④地域貢献
 - ▶企業市民として地域の発展へ貢献

対JR西日本

- ①新幹線便数の増発可能性
 - ▶待避線確保
- ②新たな観光地の提供
 - ▶観光資源の少ない山陽新幹線における商品開発
- ③低投資による地域振興への貢献
 - ▶基本的に地元負担による新駅整備
- ④鉄道乗客の増加
 - ▶航空路線からの奪回

ゲートゾーン・地域拠点の整備

ゲートゾーンの位置づけ

① 広域行政の推進拠点

- 自治体間の相互調整、福北豊・トライアングル構想、九州北部学園都市構想の推進等を行う

② 筑豊北部の文化・交流拠点

- 交通利便性を活用して、多様な人々の交流を促進し、地域文化や地域特有の産業を支援する

③ 地域の玄関口

- 地域のランドマーク、出発点であると同時に終着点、出会いと別れのドラマが演じられる場、地域の人々が日常的に集まり、活動する

ゲートゾーンの整備イメージ

① 駅機能

- 駅舎、駅前広場等

② 公共サービス・情報交流機能

- 筑豊インフォメーションセンター、公共公益施設等

③ 都市機能・アミューズメント機能

- 教育・福祉施設、商業・サービス施設、宿泊施設、アミューズメント施設（筑豊をテーマ）等

④ 業務機能

- 企業の統轄本部、情報収集拠点等

⑤ 居住機能

- 高級住宅地、国際滞留型施設、高付加価値住宅（福祉、情報基盤）等

地域拠点の位置づけ

① 関連プロジェクトの推進拠点

地域拠点の整備イメージ

① 筑豊北部新産業の森

② まいんどミュージアム

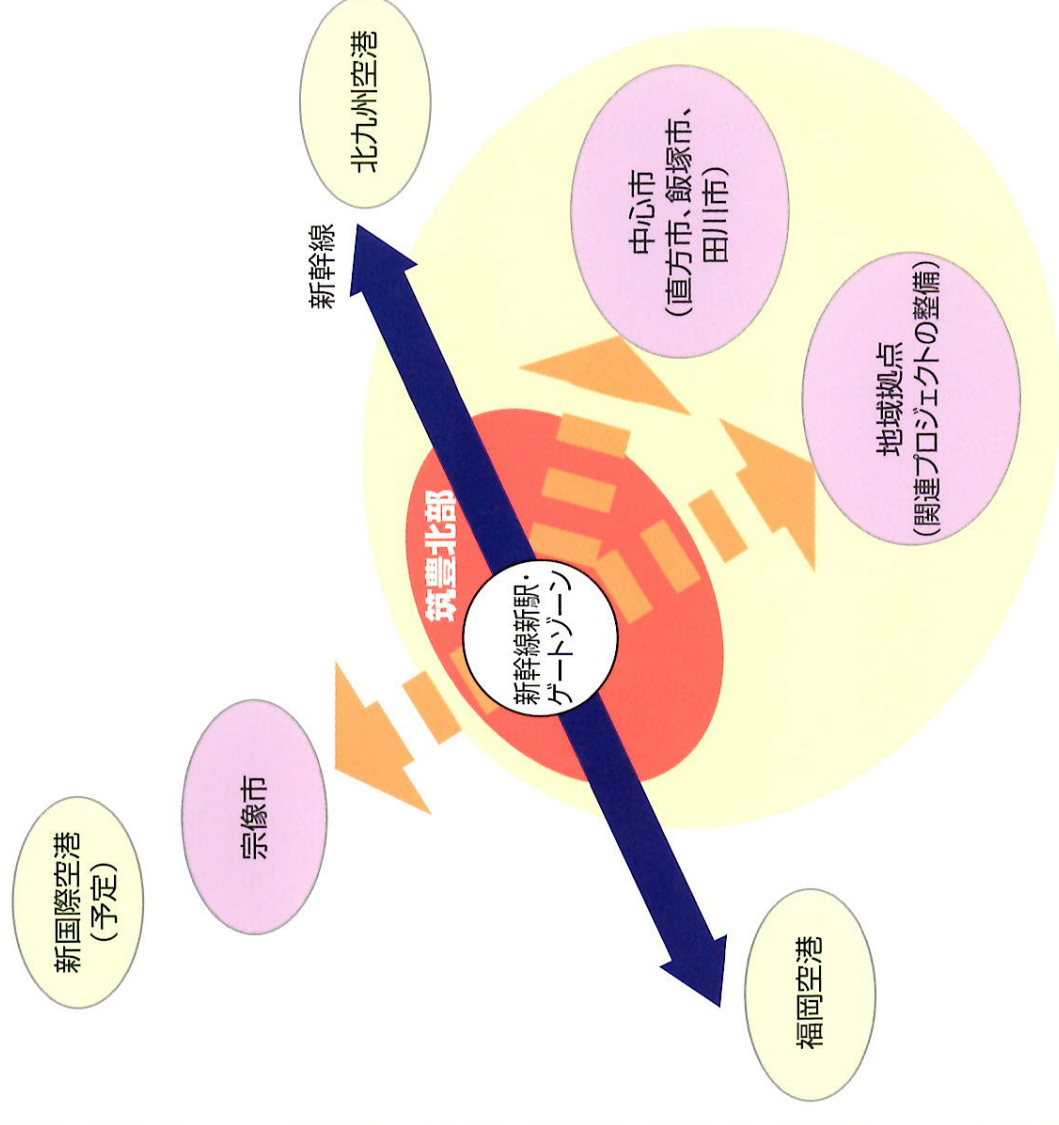
ゲートゾーンと地域拠点を結ぶネットワークの整備

ネットワーク整備の位置づけ

- ①ゲートゾーン、地域拠点、中心市を結ぶ南北交通軸の整備
 - 宗像市、直方市、飯塚市等からの新幹線新駅への利便性を高める
- ②筑豊北部における公共交通主体の環境にやさしい開発整備を促進
- ③県内の3つの空港へのアクセスが容易な地域として新幹線新駅周辺のポテンシャルを増大

ネットワークの整備イメージ

- ①当面・・・幹線道路整備、コミュニティバス整備、IMTS、自転車道 等
- ②将来・・・本格LRT(ライトレール・トランジット)の整備
 - 道路空間との共存可能
 - JRひきこみ線の活用
 - 車輦そのものが観光資源
 - 環境への負荷が少ない



注:IMTSとは次世代交通システムのこと。「バスなどの車両が専用道にて自動運転・隊列走行を行うシステム」のこと。

6. まいんどバレー構想の多面的展開

関連プロジェクト 新産業の森&まいんどミュージアム

関連プロジェクト

1 筑豊北部新産業の森の創造



新エネルギー研究開発の先進的取り組み

- 新エネルギー研究開発施設の誘致
- 生態系・環境との共生に配慮したエネルギー・環境創造の先進地域の形成

新産業創造の取り組み

- 学術研究機関の誘致
- 新産業創造拠点の整備

2 まいんどミュージアムの整備



地域の特色を活かした「ミュージアム」整備

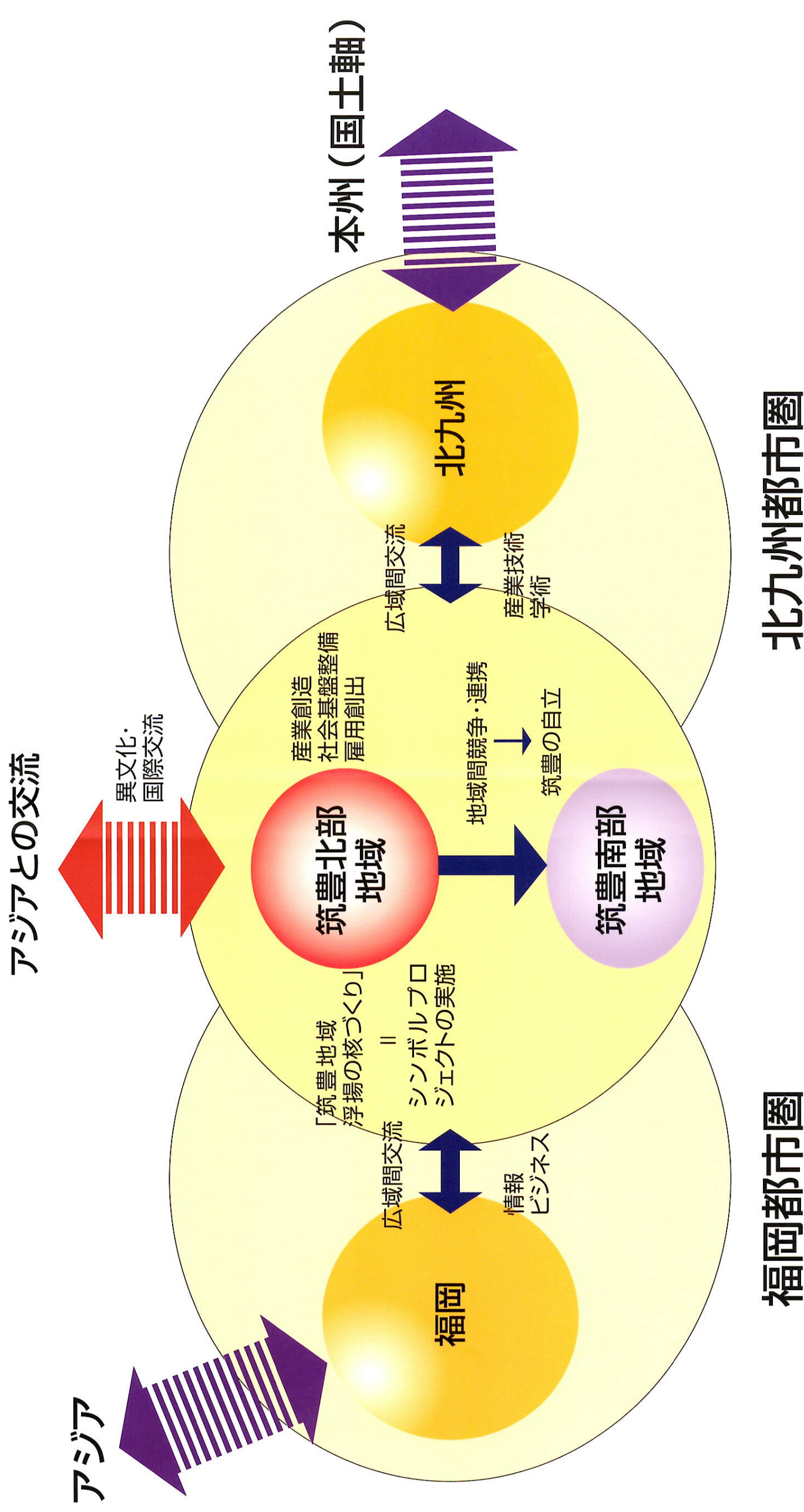
- 既存資源を活用した「ミュージアム」の整備
- 新しいテーマによる「ミュージアム」の整備

四季の恵み豊かな花・水・森の環境・景観形成

- 田園の保全と活用
- 地域環境の保全と創造

7. まいんどバレー構想で変わる地域構造

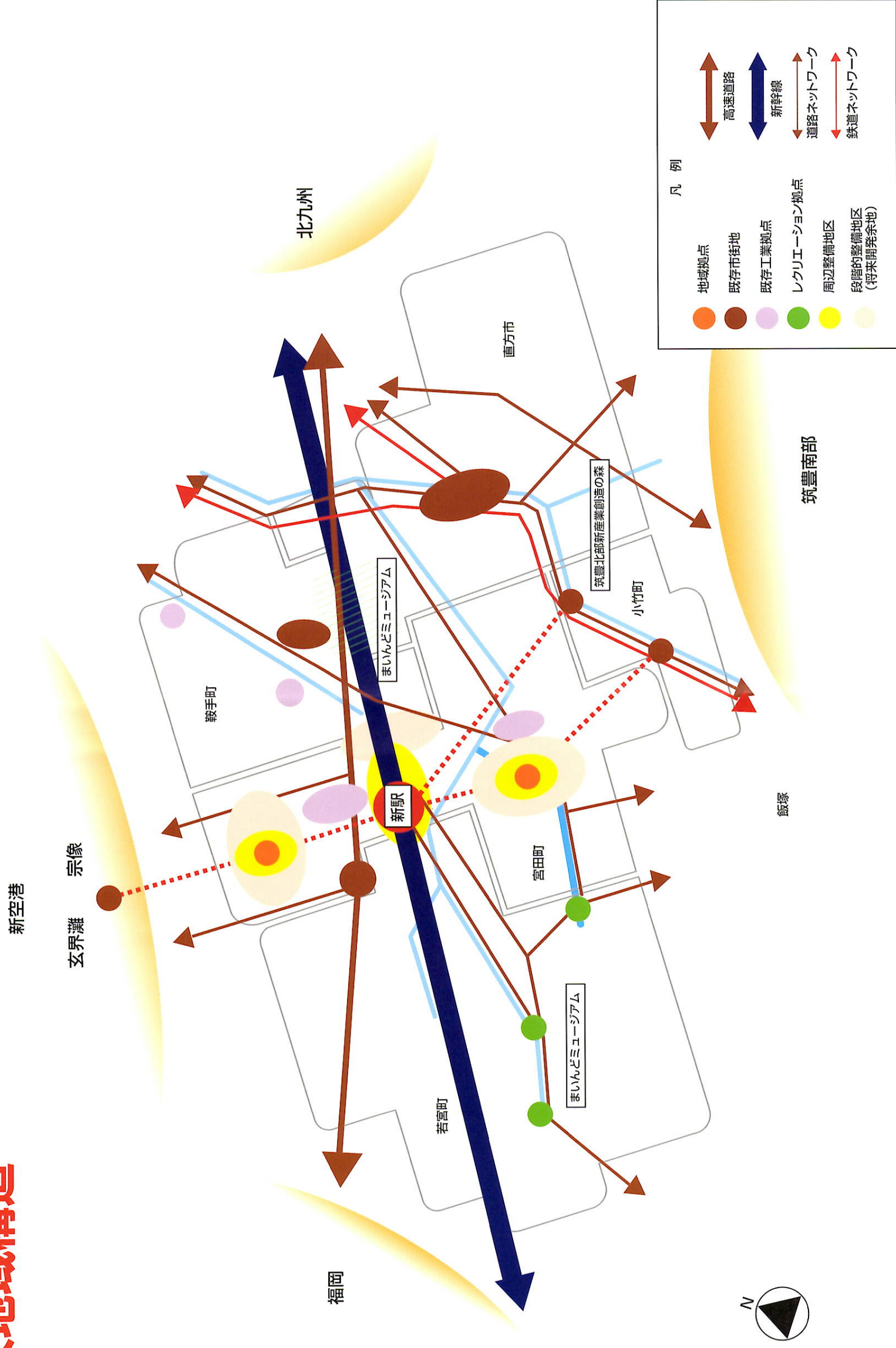
将来圏域構造



福岡都市圏

北九州都市圏

将来地域構造



8. まいんどバレー構想の実現に向けて

1

まちづくり組織の体制整備

相互の意見交換の場、外部の筑豊ファンの意見も積極的に取り入れていく受け皿の整備（例.オピニオンリーダーとして1000人委員会の設置、一口株主総会、まちづくりナビゲーターの育成）。

2

環境保全のための取り組み

新たな都市機能の導入における地価の急激な上昇や無秩序なスプロール開発の抑制（例.地権者の一口株主運動など）。

3

相互連携

官・民連携による1000人委員会などの設立。ミニ開発の抑制、土地利用のバランスの維持、情報公開・情報発信。

4

地元主体の緩やかなルールづくり

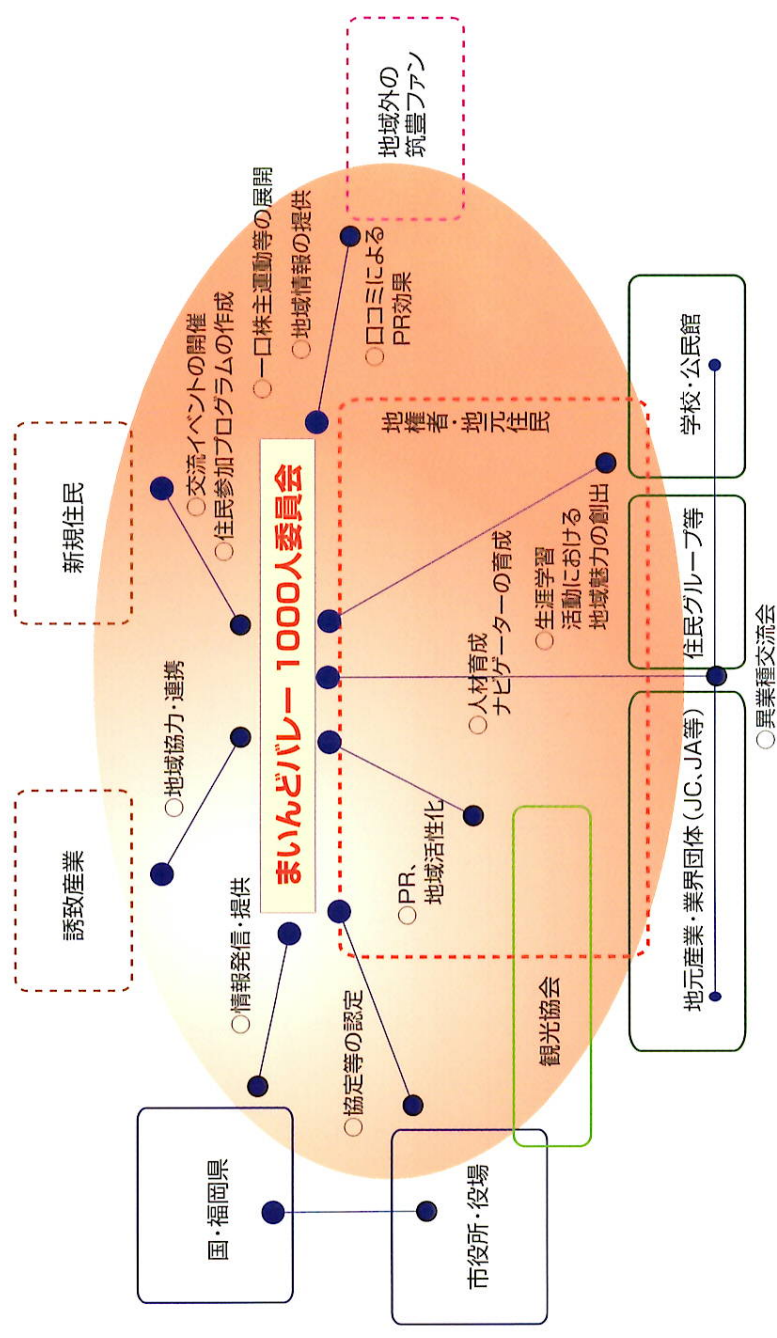
景観ガイドラインの策定や各地域拠点ごとの建築協定・緑地協定・景観協定等の締結。

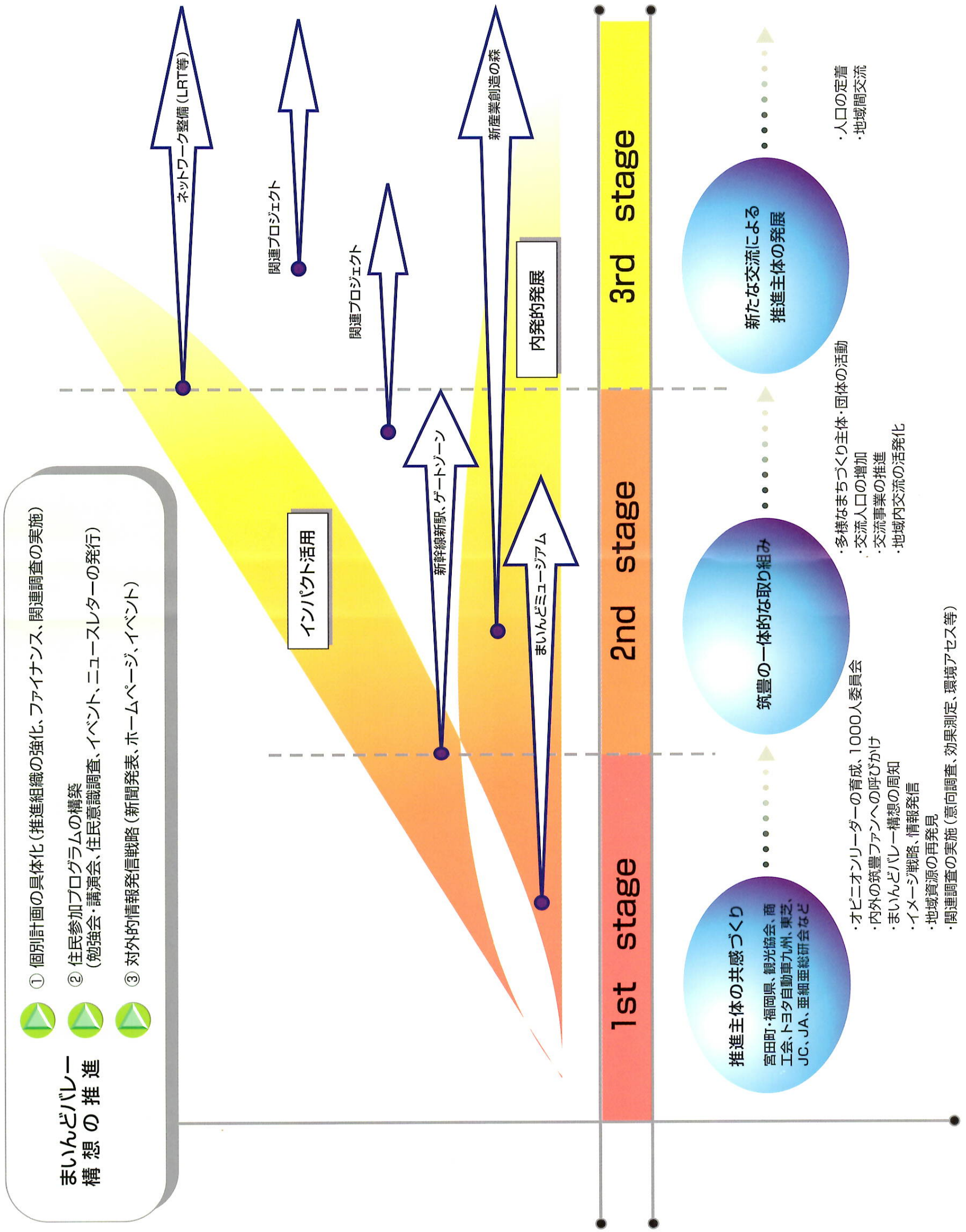
5

人材育成

異業種交流・生涯学習活動による人材育成、各地区のまちづくり動向の把握、地区整備の企画・立案・運営・管理を先導するリーダー（例.まちづくりナビゲーター）の育成。

◆ まいんどバレー 1000人委員会のイメージ





まいんどバレー構想報告書

(禁無断転載)

発行日 平成13年11月
発行者 九州環境開発株式会社
〒823-0013 福岡県鞍手郡宮田町大字芹田814-1
作成協力 株式会社 シティプランナー・ナカジマ
株式会社 関西総合研究所(KIDS)

000154

main de alliée

まいんどバレー構想 筑豊の自立を導くゲートゾーン～新幹線新駅設置と周辺整備について～

平成13年11月 九州環境開発株式会社